

第8回十日町市学区適正化検討委員会会議録

開催日：平成31年3月11日（月）午後5時～

会 場：市役所車庫棟（大会議室）

出席委員

高橋委員長、古澤副委員長、須藤委員、渡邊委員、藤巻委員、丸山委員、
鈴木委員、江口委員、田口委員、山賀委員、井上委員、五十嵐委員、小野塚委員

欠席委員

根津委員、水落委員、南雲委員

事務局出席者

蔵品教育長、樋口子育て教育部長、長谷川教育総務課長、山岸学校教育課長、
山本指導管理主事、市川教育総務課長補佐

開会 午後5時

1 開会あいさつ 高橋委員長

今回で検討委員会が第8回になりますが、3回の学校視察を含め、子どもファーストで検討していただいた。本日は最終確認ということで、答申をお渡しできれば良いと思うのでよろしく願います。

2 議 事

(1) 前回会議録の確認

高橋委員長・確認のうえ意見を求める。

(特に質疑なく承認された。)

(2) 配布資料について

高橋委員長・資料の説明を求める。

長谷川課長

・修正意見がないため配布資料なし。

(3) 「十日町市立小・中学校の望ましい学区について（答申）」【案31.3】について

高橋委員長・資料の説明を求める。

・事務局により1項目ずつ説明（長谷川課長）

(特に質疑なく承認された。)

高橋委員長

・答申の鑑文について事務局の説明を求める。

・事務局により説明（長谷川課長）

高橋委員長

- ・このまま答申の鑑文として良いか意見を求める。

(特に質疑なく承認された。)

(4) 答申

「十日町市立小・中学校の望ましい学区について」答申が、高橋委員長から蔵品教育長へ提出された。

蔵品教育長

- ・只今、高橋委員長から答申書をいただいた。7月3日に諮問させていただき、小中学校の教育環境の整備と充実した学校教育の実現に資するためということで検討いただいた。学校視察を3日間行い、その後2回のワークショップをグループ討議中心に行い、その後全体会でご議論いただいた。委員の皆様からは、深くまた広い視野の中での熱心なご議論を賜った。心から感謝と御礼を申し上げる。

今、子どもたちのおかれている環境は、少子化により学校が小規模になっており、様々な課題がでてきているが、それを乗り越えるため、より良い教育環境を提供するため答申をいただき、教育委員会として望ましい学区についての方針案を定めて、パブリックコメントを行い、その後正式な方針決定という作業がある。それを踏まえて6月ごろから市民の皆さんに、直接説明に入りたいと考えている。しっかりと説明申し上げ、市民の皆さんにご理解いただけるよう、教育委員会として最大限の努力を重ねて参りたいと感じている。

先般の議会でも様々なご質問をいただいた。小学校は第1次方針をそのまま踏襲という形であるが、中学校は新しく出てきた課題ということで、市民の皆さんには大きな戸惑いや実際に統合が必要なのかという思いではないか。市民理解をいただくためにどういうことを考えなくてはならないかということであるが、川西地域の議員から川西中学校を考える会を作って考えたいという話があった。各学校の学校運営協議会でも議論を重ねていただき、議論の輪が広がることによって、市民の理解を少しずつ得られるのではないかと思います。委員の皆様方からは、委員の任は今日で終了となるが、地域の中でご助言や議論の中で出てきたことなども市民の皆さんにお話いただきたく、その中から市民理解が一層進むよう応援を賜りたい。そんなことをお願い申し上げ、また、長い間熱心にご協議いただきましたことを心から感謝と御礼を申し上げましてあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

(5) 意見交換

市川課長補佐

- ・委員の皆様からお1人ずつ感想をいただきたい。初めに高橋委員長から願います。

高橋委員長

- ・長い間ありがとうございました。私が委員長ということで、皆さんからはご意見もあろうかと思うが、答申を提出できたことに御礼を申し上げます。教育委員会には、子どもたちのために再編を進めていただきたいと思います。

古澤副委員長

- ・私が副委員長として検討委員会に加わり、委員の皆様には私の力不足を感じられたのではないかと申し訳なく思うが、私自身としては十日町市を深く考える良い機会をいただけたと思う。これから少子化となっていく子どもたちのために、より良い環境を作っていくことに協力できたら良いと思う。

委員

- ・この3月で定年退職を迎える。今後は一学区民として中条小学校、中条中学校の皆さんへの理解が進むよう、私が知り得たことを活かしていきたいと思う。

委員

- ・新聞で途中経過が発表されていたので、職場でも職員たちの話題になっており、自分のお子さんのことや地域のお子さんのことを親身に心配していることを肌で感じていた。検討委員会で議論したことが、良い形で迅速に進むことを願っている。第1次方針では、教育委員会が地域に説明に伺ってもなかなか統合の話が進まずに、苦慮されていたという経過を聞いたので、皆さんが子どもたちのために、良い方向に向いてくれたら良いと思う。

委員

- ・PTA連合会の会長として出席していたが、色々な会合で学校の方と会うと、統廃合の問題に皆さん非常に興味を持っていた。私も出身の学校と子どもが通っている学校が違うということで、色々な地域のことを考えながら話をした。少子高齢化の状況が、益々進むということを目まじりと感じた。行政がもう一步踏み込んだ推進がないと、この話は絵に書いた餅になる。私たちも協力していきたいと思うが、地域への説明等をお願いする。

委員

- ・私は吉田ということで、今年1月に吉田地区として教育委員会に、望ましい学校の在り方として要望書を提出した。それはそれとして、今回の検討委員会では諮問について協議してきて、ある程度の提案があつての協議であり、当初は時間があると感じていたけれど、自分でどれだけ意見が述べられたかという点は何とも申し上げられないが、ここまで来ることができて良かったと思う。

委員

- ・私の子どもも複式学級の学校に通っている。色々な学校の視察を経験して、教育環境の差をあらためて感じた。来年度以降が一番大事な時期だと思うので、子どもたちのためにこれからも協力していきたいと思う。

委員

- ・会議に出席できず申し訳なく思う。橘地域の振興会長を務めており、橘地区では保育園が合併している。地域には、この協議の内容を1回や2回ではなく、ある程度浸透するまで粘り強く説明していただきたいと願う。保育園の合併のときにもそうだが、橘地域には合併にアレルギーがある。行政として少しでも解消できるように、何回も

説明して理解を得られるようにしてほしい。今子どもたちを持つ保護者はもちろんだが、地域の中に理解を求めるよう切に希望する。

委員

- ・この会議に加わるまでは、川西地域のことがなんとなく分かっている程度で、十日町市全域の状況をはっきりと分かっていなかった。学校視察も含め何回も皆さんの意見を聞くことで、十日町地域全体がどういう状況にあるかというのも大体把握することができた。先日川西地域の小中学校PTAでの懇親会があり、そこでも統合が話題に上がっていたが、川西中学校が次年度1年生が1クラスになるかも知れないということと、部活動も1つ2つ減るところまでできているということで、合併も止む無しという意見があったことから、保護者の中では概ね認められているのではないかと感じた。ここでまとめた結果を教育委員会が、十分に地域の方々や保護者の方々に説明していただき、話がまとまるように進めてほしい。

委員

- ・私は、人口減少の著しい松代地域の住民の代表として、ここに参加させてもらったが、私どもの地域に限らず、学校というのは地域の拠り所になってきたと思う。どうしても感情論が先行していく感じになるが、色々議論した結果、やはり子どもの教育環境を改善していくという一点でここまで集約されてきたように思う。これから実際に進めていくと大変厳しい状況があると思うが、子どもの数が減っているのだけは覆いがたい事実である。それはきっちりと受け止める必要があると思いながら、ここに参加させていただいた。

委員

- ・私も松代の代表として、この検討委員会に参加させていただいた。私の地域は過去において統廃合が繰り返された地域なので、理解がある地域だと思っているし、悪い意味ではなく諦めもあるのかと感じている。地域によってはデリケートなものがあり、当初会議ではなかなか発言しづらい感じがあったが、3回目くらいから子どもたちのことを思って発言ができるようになった。地域によっては、大きな問題になっていることを理解している。当初から答申案は、完璧なものとはできないだろうと認識したなかで作ったけれども、答申を出さないと議論が始まらない。やっと色々なところで議論が出はじめたので、子どもたちの教育環境について注目されるようになったことは、とても良かったと思っている。私もこの検討委員会に参加して非常に勉強になり、良い経験ができたので感謝申し上げる。

委員

- ・この検討委員会で、私はほとんど役に立たなかったと思うが、各委員の皆様と教育委員会の方々が、十日町市の子どもたちのことを考え、一生懸命に取り組んでいる様子を見て、保護者としてうれしく感じた。高橋委員長から教育長に答申が渡されたが、これで終わりではなく、これからも協力できるところは意見を出して、子どもたちを見守っていききたいと思う。

委員

- ・私は、まつのやま学園のPTAという立場で参加した。今回は、中学校の学区の再編という大きな答申が示されたが、松之山地域では小学校と中学校が1校という学園の形で昨年度からスタートしており、検討委員会ではまつのやま学園についても議論され、今回の答申の対象外になっている。先を見ると、生徒数が減っていくのはわかっているのですが、今回とは別の形で松之山地域も考えていかなければならないと思っています。この答申が、地域に帰って色々なところで浸透し、良い形で結果となって進むことを願っている。

3 その他

- ・特になし

4 閉 会

古澤副委員長あいさつ

- ・改めて皆様ありがとうございました。本日高橋委員長から蔵品教育長へ答申が渡され、これから教育委員会でしっかりと検討されることをお願いしたいと思う。今回で最終ということで、委員皆様と顔を合わせるのも最後になる。子どもたちのために熱心に審議していただいたことを感謝申し上げ、閉会のあいさつにさせていただきます。1年間ありがとうございました。

午後6時10分 終了